相楽総三 懐刀　　桐野利秋 大太刀

幕末の両雄"再会"

157年ぶり

下諏訪宿本陣岩波家

来月3日から遺刀展

県宝に指定される下諏訪町の下諏訪宿本陣岩波家で5月3～5の3日間、「相楽総三・桐野利秋　遺刀展～157年ぶりの両雄の再会・信州の幕末ロマン」が開かれる。赤報隊隊長で勤王志士の相楽総三の懐刀と、「人斬り半次郎」の異名を持つ桐野利秋（中村半次郎）の大太刀とされる二振りの刀を特別公開。同じ時代を生きた両雄の刀が、時を経て、相楽が処刑された下諏訪の地で相まみえる。（浜武司）

相楽総三の懐刀と桐野利秋の大太刀の説明をする佐藤肇祐さん㊨と岩波太佐衛門尚宏さん

相楽総三は大政奉還を掲げて赤報隊を結成し、同志とともに行動した勤王志士で、最後は「偽官軍」の汚名を着せられ、下諏訪宿の外れで処刑された悲運の志士。相楽の懐刀は刃渡り約16㌢。当時の岩波家当主・岩波太佐衛門の日記に「処刑される直前に託した」との記述が残されており、代々岩波家に伝えられている遺刀だ。

一方、桐野利秋は幕末の四大人斬りの一人に数えられ、西郷隆盛の右腕と言われた英傑で、西南戦争で戦死している。桐野の刀は刃渡り約68㌢で、そりの少ない大太刀。歴史刀剣探究家の佐藤肇祐さん(50)＝松本市＝が所有。刀身とこしらえ、白さやがそろっており、日本刀剣保存会の鑑定書があるという。

幕末期の歴史も研究している佐藤さんによると、西郷隆盛の指示で相楽総三と浪士たちを薩摩藩邸でかくまっていることなどから、相楽が戊辰戦争で桐野の部隊に参加していた可能性もあり、相楽と桐野に強い接点があった可能性は高いという。

「刀の展示を通して、相楽総三と桐野利秋の世直しと言える幕末ロマンを多くの人に発信したい」と話す佐藤さん。岩波家現当主の岩波太佐衛門尚宏さん(53)は「当時の当主が相楽から預かった大切な刀。まずは信州の人に知ってもらい、今の認知を高める活きたい」と話して

観覧料は大人8学生以下400円は午前10時～午後合わせは下諏訪宿（電話0266 55）へ。